

長距離国際貨物便対応拡充へ

■北九州空港、27年8月に3000メートル化

北九州空港は3月16日に開港20周年を迎えた。アジア主要都市に近い立地かつ24時間運用可能な海上空港であり、貨物便受け入れ体制を充実させるための各種施策が展開されている。2027年8月末には滑走路（現行2500メートル）の延長（3000メートル化）が予定されており、欧米を含む長距離国際貨物便のさらなる就航への期待が高まっている。定期便・チャーター便を含めて大型貨物機の就航に対応できる体制を整えており、半導体製造装置をはじめ、精密機器・背高貨物の取り扱い実績も積み重ねている。北九州市港湾空港局空港企画部空港企画課の永津紫・航空物流担当係長は「滑走路3000メートル化で、欧米を含む長距離貨物便が高い搭載重量を確保した上で就航できる環境が整う。貨物施設の充実と併せて、利活用の選択肢が格段に広がる」と説明する。



北九州市空港企画課の永津紫係長④と鐘ヶ江健太氏



2027年8月に滑走路延伸を控える北九州空港

26年3月31日に閣議決定された総合物流施策大綱（2026～30年度）に「北九州空港の滑走路延長やエプロン拡張整備等による一般空港等の機能強化を推進する」と明記されるなど、北九州空港の重要性が高まっている。北九州空港の25年度の貨物取扱量は4万933トン（国際1万9トン、国内3万984トン）で、過去最高を記録した。

北九州空港は大型機を含めた貨物便就航実績が豊富だ。貨物機専用エプロンの整備も順次、進められてきた。現在は貨物地区の前面に大型貨物機対応を含む3スポット（国内線1スポット、国際線2スポット）が並び体制となっており、さらにこの3スポットの北側に新たなエプロンを整備する計画が進められている。

現在の貨物施設は、開港当初の貨物ビルに加えて第1・第2国際貨物上屋、国際貨物テント倉庫、国内第2貨物上屋、国内貨物テント上屋が整備・配置され、さらに25年10月には運営主体がエアワールド社の航空貨

物上屋（フォワーダー）施設の供用が開始された。国際航空貨物の保安制度の厳格化（爆発物検査の強化）への対応を目的に、26年3月には国際貨物上屋（第1国際貨物上屋）にX線検査装置が導入された。

空港岸壁から貨物地区への直線道路も整備された。シー・アンド・エア輸送に際しての利便性が高まったほか、大型貨物などを直接、機側へ横づけする輸送形態にも適したルートを確保できる。貨物地区から岸壁の方面には、貨物施設の拡張用地もあり、今後の貨物需要拡大に対応することが可能だ。将来的には浚渫土砂処分事業により、空港関連用地拡大といったポテンシャルを有していることも強みだ。

現在の国際貨物便ネットワークは、大韓航空の北九州→ソウル仁川線（週1便）とロサンゼルス→北九州→ソウル仁川線（週1便）、ユナイテッドパーセルサービスのフィリピン・クラーク→関西→北九州→関西→フィリ

ピン・クラーク線（週5便）。海外ハブ空港への接続で世界各地へのネットワークが充実している。国内貨物便はヤマトグループおよび日本航空グループによる北九州空港と羽田空港、成田空港、新千歳空港、那覇空港を結ぶ路線がある。なお国内貨物便は27年6月で運航を完了し旅客ベリーへの転換で輸送の最適化を図る。

国際貨物定期便を運航する航空会社に対する助成（26年度からは欧米便の就航を目指す航空会社に対する助成も創設）があるほか、基幹路線の定期便を運航する航空会社に対する助成、グランドハンドリングなどの貨物受け入れ体制を強化する事業者に対する助成も26年度に創設された。旅客ターミナルビルなどの運営を担う北九州エアターミナルがメインデッキローダー、ハイルフトローダー、

国際物流業界トピックス

ドーリーなどのGSE機材を所有しており、就航する航空会社にとっては初期投資が軽減されるといったメリットを提供している。福岡県や地元自治体、関係企業、北九州エアターミナルなどが連携して、より就航しやすい環境づくりに努めている。

北九州空港物流拠点化推進協議会（事務局・北九州市）は「スカイコネ

クトKKJ」のコンセプトの下で、「九州・西中国の物流拠点空港」を目指している。北九州市の永津係長は「半導体製造装置を含む高付加価値貨物への対応もより充実する」と強調するとともに「利活用に向けた業界団体の視察も増え、九州の貨物拠点空港としての期待は一段と高まっている。既存路線の増便と並行して、欧米新

規路線、チャーター便の誘致なども着実に前進している」と語る。併せて国内貨物便が就航したことによって、国内フィーダー路線の重要性も明確になったという。海外ハブ空港への接続とともに、成田・羽田に輸送して国際線に接続するといった輸送ルートも念頭に貨物需要の拡大、航空会社の誘致に取り組む方針だ。